

宮城県感染症発生動向調査情報(第36週)

宮城県【平成26年09月11日】発行
宮城県保健環境センター
TEL (022)257-7228

- 2014.9.1 ~ 9.7 ・ 第36週 -

上段は患者発生数、下段は定点当り

疾 病	保 健 所							仙 台 市				宮 城 県 (含 む 仙 台 市)			
	仙南	塩釜	大崎	栗原	登米	石巻	気仙沼	患者数	患者数	累計	第33週	第34週	第35週	第36週	
水痘	3 0.60		6 1.20		2 0.67	1 0.20	1 0.50	15 0.58	28 0.48	1,417	→	○→	レ→	○	
流行性耳下腺炎		1 0.10			2 0.67			7 0.27	10 0.17	466	→	→	→		
百日咳											→	→	→		
感染性胃腸炎	19 3.80	26 2.60	10 2.00	16 8.00	15 5.00	5 1.00	1 0.50	81 3.12	173 2.98	14,475	◎→	◎→	◎→	◎	
手足口病	1 0.20	1 0.10	4 0.80		3 1.00			10 0.38	19 0.33	238	→	→	→		
伝染性紅斑	4 0.80	1 0.10	3 0.60		15 5.00	21 4.20		14 0.54	58 1.00	1,885	○→	○→	○→	○	
突発性発しん	6 1.20	6 0.60	3 0.60		2 0.67	5 1.00	2 1.00	22 0.85	46 0.79	1,398	レ→	○→	◎→	○	
ヘルパンギーナ	21 4.20	58 5.80	44 8.80	24 12.00	14 4.67	40 8.00	7 3.50	148 5.69	356 6.14	1,699	◎→	◎→	◎→	◎	
インフルエンザ											→	→	→		
咽頭結膜熱	1 0.20	2 0.20		5 2.50		2 0.40		5 0.19	15 0.26	523	→	→	→		
流行性角結膜炎		1 0.33						1 0.08	113		→	→	→		
急性出血性結膜炎											→	→	→		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	3 0.60	12 1.20	2 0.40	2 1.00		16 3.20		26 1.00	61 1.05	4,250	○→	○→	○→	◎	
細菌性髄膜炎(真菌性を含む)											→	→	→		
無菌性髄膜炎											→	→	→		
マイコプラズマ肺炎			1 1.00	1 1.00			4 4.00	1 0.20	7 0.58	306	→	→	→		
クラミジア肺炎(オウム病は除く)											→	→	→		
RSウイルス感染症	1 0.20					1 0.20		10 0.38	12 0.21	409	→	→	→		
拡 張 疾 病	マイコプラズマ肺炎(小児科)		1	5			1	1	◎：流行の変化について、今後の情報に十分注意 ○：発生または流行について、今後の情報に留意 レ：発生が少なくなっている傾向						
	川崎病								【週報の詳報】宮城県保健環境センターのホームページをご覧ください。 http://www.ihe.pref.miyagi.jp/~kansen-center/						
	不明発疹症							5							
	感染性胃腸炎(ロタウイルス)※								52						

※ 法改正により、平成25年10月14日より、ロタウイルスが原因の感染性胃腸炎について、基幹定点より報告を求めることになりました。

定点把握の対象となる5類感染症(全国 第34週)

(国立感染症研究所感染症疫学センターホームページより抜粋)

インフルエンザ: 定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は沖縄県(0.50)、宮崎県(0.10)、福井県(0.09)である。基幹定点からのインフルエンザ入院サーベイランスにおける報告数は9例と前週と比較して増加し、7道県から報告があった。**RSウイルス感染症**: 報告数は725例と第31週以降増加が続いている。年齢別では1歳以下の報告数が全体の約81%を占めている。**咽頭結膜熱**: 定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期(前週、当該週、後週)と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は群馬県(1.40)、富山県(0.83)、長野県(0.83)、静岡県(0.80)である。**A群溶血性レンサ球菌咽頭炎**: 定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してかなり多い。都道府県別の上位3位は鳥根県(1.52)、鹿児島県(1.35)、鳥取県(1.32)である。**感染性胃腸炎**: 定点当たり報告数は増加し、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は大分県(7.11)、鳥根県(6.17)、宮崎県(6.11)である。**水痘**: 定点当たり報告数は増加したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は石川県(4.79)、佐賀県(3.65)、大分県(2.19)である。**百日咳**: 定点当たり報告数は増加した。都道府県別の上位3位は石川県(4.79)、佐賀県(3.65)、大分県(2.19)である。**ヘルパンギーナ**: 定点当たり報告数は3週連続して減少したが、過去5年間の同時期と比較してやや多い。都道府県別の上位3位は新潟県(7.25)、長野県(5.68)、山形県(5.26)である。**マイコプラズマ肺炎**: 定点当たり報告数は減少した。都道府県別の上位3位は福島県(2.14)、宮城県(1.00)、北海道(0.61)である。**感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)**: 定点当たり報告数は横ばいであった。熊本県から1例報告があり、年齢別では1~4歳であった。

* 全国の指定された医療機関(小児科定点(約3,000カ所)、インフルエンザ(小児科+内科)定点(約5,000カ所)、眼科定点(約600カ所)、基幹定点(約500カ所)の集計結果です。()内数字: 定点当たり報告数

今週の全数報告疾病

- 1類感染症: 報告なし ※男児、女児は6歳未満
- 2類感染症: 結核
 - 大崎管内 男性1名(第35週)
 - 気仙沼管内 男性1名
 - 仙台管内 女性1名
- 3類感染症: 腸管出血性大腸菌感染症(O157)
 - 大崎管内 女性1名、男児1名*
 - 腸管出血性大腸菌感染症(O26)
 - 仙南管内 女性1名
 - 気仙沼管内 女性1名
- 4類感染症: 報告なし
- 5類感染症: 報告なし

今週のインフルエンザによる入院患者報告(仙台市を含む基幹定点報告) 0例

今週の感染症のコメント

宮城県感染症対策委員会情報解析部会

- 【伝染性紅斑】
登米、石巻管内で警報継続中。
- 【ヘルパンギーナ】
塩釜、大崎、栗原、登米、石巻管内で警報継続中。

【病原体検出情報】

～宮城県保健環境センター～

感染性胃腸炎患者より
塩釜管内 第35週採取分 ヒトパレコウイルス(3型) 1件

～仙台医療センターウイルスセンター～

	第34週採取分 (8.18～8.24)	第35週採取分 (8.25～8.31)	第36週採取分 (9.1～9.7)
パラインフルエンザウイルス1型	1件	0件	0件
パラインフルエンザウイルス2型	0件	1件	0件
ヒトメタニューモウイルス	0件	1件	0件
RSウイルス	2件	2件	1件
アデノウイルス	0件	1件	0件
エンテロウイルス	0件	2件	0件

【デング熱について】

デング熱は、蚊が媒介するデングウイルスによって起こる急性熱性疾患で、アジア、中南米、アフリカ等の世界の広域で流行している感染症である。厚生労働省から発表されている2014年8月以降の国内感染事例の発生状況では、患者数が94名となっている。9月10日現在、宮城県内での発生は報告されていませんが、予防には蚊に刺されないようにすること、長袖・長ズボンの着用、昆虫忌避剤の使用等の対策が必要である。デング熱に関する最新の情報は、厚生労働省や感染症研究所のホームページを参考にしてください。

- 厚生労働省 デング熱について
http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/dengue_fever.html
- 感染症研究所 デング熱とは
<http://www.nih.go.jp/niid/ja/encyclopedia/392-encyclopedia/238-dengue-info.html>